



PROC-1368





Amadeus Quartet ©DG

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト
Wolfgang Amadeus Mozart (1756-1791)

アイネ・クライネ・ナハトムジーク ト長調 K.525 (弦楽五重奏版)
Eine kleine Nachtmusik G-dur K.525

- | | |
|------------------------------|--------|
| ① 第1楽章: Allegro | [5:44] |
| ② 第2楽章: Romance. Andante | [5:32] |
| ③ 第3楽章: Menuetto. Allegretto | [1:50] |
| ④ 第4楽章: Rondò. Allegro | [3:48] |

音楽の冗談 K.522 《村の楽士の六重奏》
Ein musikalischer Spaß K.522 "Dorfmusikanten-Sextett"

- | | |
|-----------------------------------|--------|
| ⑤ 第1楽章: Allegro | [2:53] |
| ⑥ 第2楽章: Menuetto. Maestoso - Trio | [6:27] |
| ⑦ 第3楽章: Adagio cantabile | [5:44] |
| ⑧ 第4楽章: Presto | [4:21] |

ディヴェルティメント ニ長調 K.136 (125a)
Divertimento D-dur K.136 (125a)

- | | |
|-----------------|--------|
| ⑨ 第1楽章: Allegro | [3:58] |
| ⑩ 第2楽章: Andante | [4:37] |
| ⑪ 第3楽章: Presto | [2:38] |

ディヴェルティメント 変ロ長調 K.137 (125b)
Divertimento B-dur K.137 (125b)

- | | |
|--------------------------|--------|
| ⑫ 第1楽章: Andante | [4:15] |
| ⑬ 第2楽章: Allegro di molto | [2:22] |
| ⑭ 第3楽章: Allegro assai | [1:41] |

ディヴェルティメント ヘ長調 K.138(125c)
Divertimento F-dur K.138 (125c)

- ⑮ 第1楽章: Allegro
⑯ 第2楽章: Andante
⑰ 第3楽章: Presto

[3:29]
[3:10]
[1:46]

アマデウス弦楽四重奏団
Amadeus Quartett

ノーバート・ブレニン(第1ヴァイオリン)
Norbert Brainin, 1. Violine

ジークムント・ニッセル(第2ヴァイオリン)
Siegmund Nissel, 2. Violine

ピーター・シドロフ(ヴィオラ)
Peter Schidlöf, Viola

マーティン・ロヴェット(チェロ)
Martin Lovett, Violoncello

ライナー・ツェペリッツ(コントラバス) (①-⑧)
Rainer Zepperitz, Kontrabass

ゲルト・ザイフェルト(第1ホルン) (⑬-⑱)
Gerd Seifert, 1. Horn

マンフレート・クリアー(第2ホルン) (⑬-⑱)
Manfred Klier, 2. Horn

録音: 1974年9月24-29日 ウィーン、シェーンブルン宮殿 (⑨-⑰)
1979年4月29日-5月2日 ミュンヘン、レジデンツ、プレナールザール (①-⑧)

アマデウス弦楽四重奏団のモーツァルト

第二次世界大戦の最中^{さなか}にウィーンで学んでいた独逸の音楽家、ノーバート・ブレニン、ジークムント・ニッセル、ピーター・シドロフは、ナチスによるウィーン占領を逃れてイギリスに亡命した。3人はマックス・ロスタルに師事し、師の弟子であった英国人のマーティン・ロヴェットに出会う。この4人によって1947年にクアルテットが結成され、翌年アマデウス弦楽四重奏団と命名し活動を開始した。伝統に根差したスタイルと温かで重厚な音色やロマンティックな表現による演奏は人気を博し、世界的な活躍を繰り広げて一世を風靡した。しかし1987年にシドロフが死去し、39年に互る活動に終止符を打った。

団体名にその名を冠したとおり彼らのモーツァルト演奏には定評があり、1960年代から70年代にかけて録音した《弦楽四重奏曲全集》は、スタンダードかつ規範的な解釈と演奏で極めて高い評価を受けた。このアルバムの《アイネ・クライネ・ナハトムジーク》と

《音楽の冗談》は全集完成後の1979年の録音で、コントラバス奏者のライナー・ツェペリッツ、ホルン奏者のゲルト・ザイフェルトとマンフレート・クリアーというベルリン・フィルハーモニーの3人の名手が加わって妙技を披露している。また今回のアルバムには、1974年録音の《3つのディヴェルティメント》の清新な演奏が新たにカップリングされた。

*

セレナード 第13番 ト長調 K.525

《アイネ・クライネ・ナハトムジーク》

モーツァルトは少年期からウィーン時代まで、より詳しくいえば13歳から31歳までの期間にわたって、誕生日や結婚式・卒業式といった様々な行事や式典で演奏するためのセレナードやディヴェルティメントを数多く作曲している。「小夜曲」を意味する標題が付されたこの作品も他のセレナードと同様、機会音楽として依頼を受けて作曲されたと思われるがその詳細は不明であり、《ドン・ジョヴァンニ》を作曲する合間に気分転換を図るた

めに筆を執ったという説もある。音楽学者のアルフレート・アインシュタインは、2ヵ月前に完成した《音楽の冗談》によって毀損した音楽の秩序を回復させようとする内的衝動から作曲したのではないかと推測している。

モーツァルトのセレナードは13曲残されており、《セレナータ・ノットゥルナ》《ハフナー》《ポストホルン》《グラン・パルティータ》といった名作が名を連ねているが、そのなかでも最後に作曲されたこの作品は群を抜いて演奏される機会が多い。親しみやすい美しい旋律が散りばめられ、優美な楽想を備えていると同時に、彼の晩年の交響曲に通じる肉面的陰影も垣間見える。

なおモーツァルトの自作品目録には「アレグロ、メヌエット、ロマンス、メヌエット、フィナーレから成る」と記されていることから、元来は5楽章形式で作曲されたものと思われる。ところが最初のメヌエットは失われてしまったために、現在では4楽章構成で演奏されるのが通例である。しかしこの形でも

全く違和感はなく見事に統一が取れており、むしろ均整の取れた古典交響曲のような印象を与えるほどである。この作品は弦楽合奏で演奏されることが多いが、当アルバムには弦楽五重奏による演奏を収録している。

完成：1787年8月10日、ウィーン。

編成：ヴァイオリン2、ヴィオラ、チェロ、コントラバス。

第1楽章 アレグロ、ト長調、4分の4拍子、ソナタ形式。清冽で輝かしい主題が力強く提示されて始まる、明朗快活な冒頭楽章。

第2楽章 ロマンズ、アンダンテ、ハ長調、2分の2拍子、三部形式。抒情性に満ちた、夢見るように優美な緩徐楽章である。

第3楽章 メヌエット、アレグレット、ト長調、4分の3拍子—トリオ、二長調、複合三部形式。明確なリズムを刻む力強い優雅なメヌエットと、それに対置されるレントラー風の流麗なトリオによって構成されている。

第4楽章 ロンド、アレグロ、ト長調、4分の4拍子、ソナタ風ロンド形式。きびきびと

してウィットに富んだ楽想による、軽快でギヤラントなロンドで全曲は閉じられる。

*

音楽の冗談 K.522

30歳を過ぎて円熟期にあった作曲家が生み出した、きわめて特異な作品。凡庸な作曲家や技量の劣る演奏家を揶揄するために書かれたと推測されるパロディ曲で、一種のディヴェルティメントと考えられている。このジャンル作品に必須のオーボエを欠き、重要であるべき両端楽章が短く全体的なバランスが崩れており、古典派の楽曲には慣例のない不規則な和声などが登場、さらに音を外す様子までも採り入れたユーモア溢れるユニークで諧謔的な作品である。「村の音楽師の六重奏曲」という標題で呼ばれることもある。完成：1787年6月14日、ウィーン（作曲は1785年から87年）。

編成：ホルン2、ヴァイオリン2、ヴィオラ、バス（チェロ、コントラバス）。

第1楽章 アレグロ、ハ長調、4分の4拍子、

ソナタ形式。輝かしく始まるが途中から腰砕けとなり、途切れがちな脈略のないメロディや空虚な伴奏部分だけが奏されてゆく。

第2楽章 メヌエット、マエストロ—ソ、ハ長調、4分の3拍子—トリオ、変ロ長調、三部形式。典雅なはずのメヌエットに「マエストロ—ソ（荘重に）」の発想標語が付されている。ホルンが不協和音を奏でて台無しになるメヌエットと、ヴァイオリンが音階を上下させて不自然なソロを奏するトリオから成る。

第3楽章 アダージョ・カンタービレ、ハ長調、2分の2拍子、ソナタ形式。ここではヴァイオリンに綿々とした旋律を歌わせるが、これも巧妙に仕掛けられたパロディである。さらにカデンツァではヴァイオリンが弾き間違えるという落ち目で付いている。

第4楽章 プレスト、ハ長調、4分の2拍子、ロンド形式。ロンド主題で軽快に始まりフーガの技を示そうとするが、ホルンのトリルが加わって収拾が付かなくなり、中途半端に終わる。さらに最後には勝手に弾きまくる各奏

者が各自バラバラの調性で最後の和音を奏で、大混乱のまま全曲は終結する。

＊

3つのディヴェルティメント

簡潔にして精緻なこの3曲のディヴェルティメントは、作曲家16歳の時の作品である。合奏用か否かが不明のため、弦楽オーケストラや弦楽四重団で演奏され、いずれも等しく幅広い人気を博してきた。3曲ともメヌエットのない3楽章で書かれており、「ザルツブルク・シンフォニー」と呼ばれることもある。作曲：1772年1－3月、ザルツブルク。

編成：ヴァイオリン2、ヴィオラ、バス（チェロ）。

ディヴェルティメント ニ長調 K.136(125a)

初期の作品のなかでも特に人気の高い、急－緩－急のイタリア風序曲の形で綴られた、瑞々しい感性が迸り出るような名作である。

第1楽章 アレグロ、ニ長調、4分の4拍子、ソナタ形式。第1ヴァイオリンが活躍する、

無垢な美しさに満ちた爽やかな開始楽章。

第2楽章 アンダンテ、ト長調、4分の3拍子、ソナタ形式。イタリア風の柔和な楽想が歌われてゆく、魅力的な緩徐楽章である。

第3楽章 プレスト、ニ長調、4分の2拍子、ソナタ形式。躍動的な主題で開始され、フーガ風の書法も見られる潑刺とした終曲。

ディヴェルティメント 変ロ長調 K.137(125b)

緩－急－急という珍しい形で構成された自由な作風のディヴェルティメントで、すべての楽章が同じ調性で書かれている。

第1楽章 アンダンテ、変ロ長調、4分の3拍子、二部形式。愁いを帯びたメロディが緩やかに奏でられて開始する冒頭楽章。

第2楽章 アレグロ・ディ・モルト、変ロ長調、4分の4拍子、簡潔なソナタ形式。一転して急速で活気のある部分に転じる中間楽章で、2つのヴァイオリンが主奏する。

第3楽章 アレグロ・アッサイ、変ロ長調、8分の3拍子、三部形式。舞曲風の性格を備

えた、快活で軽快なフィナーレである。

ディヴェルティメント ヘ長調 K.138(125c)

K.136と同様に、急－緩－急の構成によって書かれたロココ風の趣を湛えた作品。

第1楽章 (アレグロ)、ヘ長調、4分の4拍子、ソナタ形式。冒頭主題で強弱の対照が見られる、明快で伸びやかな曲想の冒頭楽章。

第2楽章 アンダンテ、ハ長調、4分の3拍子、二部形式。優雅な旋律が細やかな表情で歌われてゆく緩徐楽章である。

第3楽章 プレスト、ヘ長調、4分の2拍子、ロンド形式。対位法的な書法を用いた、変化に富んだ活気ある終曲が全曲を締め括る。

2013年10月 遠藤勝彦

Executive Producer, Recording Producer & Balance Engineer: Wolfgang Mitlehner (11-18)

Executive Producer & Recording Producer: Günther Breest (19-27)

Balance Engineer: Wolfgang Mitlehner (19-27)

Recording Engineer: Manfred Bartel (19-27)

Tape Editors: Reinhild Schmidt & Wolfgang Mitlehner (19-27)

Tower Records Vintage Collection +plus Vol.17

Product selection & direction: Susumu Kitamura (Tower Records Japan Inc.)

Artwork design: Yumiko Seo

Editors: Tatsuki Ikeda, Noriko Yamamoto (Universal Music LLC)

Product manager: Kaoru Abe (Universal Music LLC)

タワーレコード・オンライン・クラシックサイト はこちら→ <http://tower.jp/classic>

<取り扱い上のご注意>●ディスクは両面共、指紋、汚れ、キズ等をつけないように取り扱って下さい。●ディスクが汚れたときは、メガネふきのような柔らかい布で内周から外周に向かって放射状に軽くふき取って下さい。レコード用クリーナーや溶剤等は使用しないで下さい。●ディスクは両面共、鉛筆、ボールペン、油性ペン等で文字や絵を書いたり、シール等を貼付しないで下さい。●ひび割れや、変形、又は接着剤等で補修したディスクは、危険ですから絶対に使用しないで下さい。 <保管上のご注意>●直射日光の当たる場所や、高温・多湿の場所には保管しないで下さい。●ディスクは使用後、元のケースに入れて保管して下さい。●プラスチックケースの上に重いものを置いたり、落としたりすると、ケースが破損し、ケガをすることがあります。
